

## 町長室から

記録的な大雨が連続して九州を襲い、多くの犠牲者と大変な被害を受けました。

梅雨前線が九州の北部から南部まで「線状降水帯」となり、1時間100mm、1日で490mmという猛烈な雨を局地的に降らせたため、避難勧告や避難指示に相当する気象状況の次元をはるかに超えるような現象時に発表され、発表時点ですでに災害が発生している可能性が極めて高いという「大雨特別警報」までもが発表されて、大小の河川が一気に氾濫して逃げ遅れた人も多数出てしまい多くの方が犠牲者となりました。災害の恐ろしさを改めて思い知らされた気がします。

更に避難所では新型コロナウイルス感染症への対応が必要であり、3密を避けるためスペースの確保など様々な課題にも直面しているようです。

九州地方は平成29年7月に40名以上の死者が出た台風3号による

「記録的短時間大雨」の被害、平成30年には130名以上の人命を失う梅雨前線の記録的大雨被害、そして昨年も1日で400mmを記録する大雨での被害と4年連続で記録的な大雨の被害が発生しています。

梅雨前線の「線状降水帯」はその後岐阜県、長野県まで伸びて大雨特別警報が発せられました。毎年のように大雨に見舞われる地域のみなさんの想いはいかなるものか想像を絶するものがあります。犠牲になられた皆様には心からご冥福をお祈り申し上げ、被災者の皆様には1日も早い復興をお祈り申し上げる次第です。

浦幌町では次々と4個襲来した平成28年時でもこれだけの降雨量は経験していませんが、十勝川が氾濫しそうになった時の恐怖の光景がよみがえって、災害はいつ何時、どこで起きるかわからないだけに、わが町が同じ状況になった時の対応をしっかりと整えておく必要を改めて感じるところです。

浦幌野鳥倶楽部が30周年を期して第3班の「浦幌鳥類目録」を上程され、町にもご寄贈していただきました。

日本では唯一浦幌町でしか発見されていない野鳥なども写真に収められており、これまでの観察記録を1冊にまとめられたもので、大変貴重な目録というより図鑑です。

日本にいる野鳥約650羽は浦幌町で半分くらいは観察できるということであり、海上でしか観察できない野鳥も多いため船をチャーターして沖合で観察撮影をすることは日常茶飯事だそうです。

野鳥311種類を貴重な写真で収録した力作であり、大変なご苦勞をされたことと推察しますが、会の30周年及び記念目録の上程にお喜びを申し上げると同時にご寄贈に心から感謝とお礼を申し上げ、各学校と図書館、博物館など関係する部署に置いて子どもたちや町民の皆さんにも浦幌町の自然がもたらす野鳥たちの貴重な姿を閲覧してい

ただきたいと思えます。

十勝池田地方法人会浦幌地区会から新型コロナウイルス感染症の対策としてコロナ用パーテーションとフェイスシールドを寄贈していただき、民間の企業からも十勝管内の自治体へコロナ対策の手洗いう消毒液を寄贈しているということで、浦幌町にも寄贈していただきました。

貴重な善意のご提供に感謝申し上げます。町民の皆様と接する職場を中心に使わせていただくことにしました。

役場では職員一同が7月から交通違反と事故撲滅に向けた「セーフティラリー」に取り組んでいます。これからも町民の皆さんから信頼される安全運転を心がけてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

浦幌町長 水澤一廣

COLUMN

連載 112

仕事について考える

札幌大谷大学社会学部 教授 平岡祥孝

北海道の爽やかな夏の躍動感も、コロナ禍によって沈滞してしまいました。労働と余暇のバランスは人それぞれですが、北国の短い夏をどのように満喫するかは、一思案。

テレワークは、新型コロナウィルスの感染拡大によって一気に拡大しました。緊急事態宣言解除後も、テレワークを継続する企業も多いようです。また、道内の大学を見渡せば、感染拡大収束以後も原則的にオンライン授業を継続している大学が多かったですね。

ワークライフバランスの推進や通勤負担の軽減などに効果を発揮したテレワークが、ウィズコロナの時代を迎えても浸透していくためには、昨今問題となっている労働生産性向上に寄与するか否かに、大きく左右されるのではないでしょうか。私のようなIT弱者の浅薄な知識と狭い視野に基づく独断と偏見ですが、情報通信技術（ICT）による労働時間の管理が踏襲される限り、さらしたる生産性向上は期待できないのではないのでしょうか。

この機会を捉えて、メンバーシッ

プ型採用からジョブ型採用への移行も、これまで以上に進むでしょう。もちろん職務範囲が明確な場合や定型的な業務ならば、テレワーク導入は効果的です。在宅勤務を拡大していけば、通勤手当も出社回数に基づく実費精算となり、従業員数が多いほどコスト削減に寄与します。ですが、対面で議論する場合には、自由な意見交換から新しい発想や独創的な着想も生まれると思います。オンライン会議では意思疎通に時間を要して、形式的な報告主体の場合となり、実りなき結果だけが残る場合も。

オンライン型のコミュニケーションが広まるにつれて、相手との関係性が希薄になるとの指摘もあります。逆にどれだけ人間関係を深める努力をするかが、成否の分かれ目となるのでは。その人の人生観にも左右されるでしょうね。そのためには意を尽くす丁寧さの程度が高まるゆえに、明快な文章を通して的確に情報を伝える力が求められます。直筆の手紙が大いに評価されるかもしれません。若い時から文章力を鍛えておくことは肝要です。

では、大学ではどうでしょうか。知識習得型の授業、学び直しの授業、あるいは到達目標が定まって学習内容がほぼ固定しているような資格試験や検定試験の対策授業においては、学習習慣が定着している学生であれば、オンライン授業は一定の効

果を發揮します。

けれども、卒業論文指導のような教員と学生の「並走型教育」では、執筆作成過程が極めて重要です。対面でQ&Aを繰り返しながら気づきを与え、学生が主体的に取り組みことを促していく教育では、本人の理解度や納得性を把握するために表情や姿勢などから読み取る必要があります。文章力だけでなく、傾聴力や継続力あるいは計画性など、可視化できない能力である非認知スキルも養うために、担当学生一人ひとりと向き合うことが、教員としての本質的な「教育生産性」を向上させることだと、私は考えます。

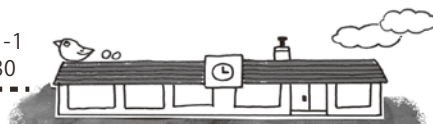
あくまで私見ながら、いわゆる「3密」を避けながらの少人数対面授業は、意欲的な学生の満足度を高めると思います。大学大衆化の時代にあつて、学生によっては不規則な生活から学びの意識が低下するオンライン教育に全面的に依存する状況では、全人的教育は不可能では。教員と学生は身体的距離を維持して共に学ぶ濃厚接触者と言え、暴論か。



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。高校生・大学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

Tokomuro Lab 通信 vol.5

浦幌町字常室 51-1  
Tel: 015-578-7580



『常室ラボの廊下に図書コーナーをつくりま〜す』

こんにちは、常室ラボ長の三村直輝です。常室カフェをしたり、「新しいしごとの創造拠点」である常室ラボ（以下ラボ）を運営したりしています。ラボを身近に感じてもらいたいと思い、常室ラボ通信を始めました。現在、常室ラボの廊下を「きつきの廊下」と命名し、図書コーナーをつくっています。図書館や本屋さんでは手に入らない珍しい本、面白い本を厳選して置き、毎日がワクワクする「きつき」のきっかけになるような場所を目指しています。本を選ぶスペシャリストの方に本を選んでいただいています。約20テーマに分けたカゴを設置して、自由に無料でラボ内で読めます。専門書から絵本、漫画まで幅広く、今まで読んだことがないような本がたくさん並びます。「十勝で本と言えば、常室ラボの廊下だね」と言われるようになるといいな〜、なんて。8月末には完成予定ですので、楽しみにお待ちくださいね。それではまた。

【開校時間Opening Hours】

定休日 火曜・水曜

ラボ 10:00-17:00  
キッズスペース(無料)やフリースペース、コワーキングスペースをご利用いただけます。校内の見学やイベント開催のご相談 etc... 承ります! ぜひ遊びに来てください。(AO)

カフェ 土曜、日曜  
11:30-15:00...ランチタイム  
15:00-17:00...カフェタイム  
校庭を眺めながら、うらほろ食材の美味しいお料理とスイーツでリフレッシュ。珈琲一杯からお気軽にどうぞ!